



スケッチで学ぶ建築文化史

透視図から近現代建築の保存再生まで

渡邊研司著



スケッチで学ぶ建築文化史

透視図から近現代建築の保存再生まで

渡邊研司 著

Contents

Lecture 1

第1講 ガイダンス 講義のねらい	- 04
------------------	------

Lecture 2/3/4

第2講 近代思考=透視図の始まり (視覚革命 1)	- 10
Sketch Workshop Lecture 2	- 16
第3講 描いている自らを描く=自画像の始まり (視覚革命 2)	- 18
Sketch Workshop Lecture 3	- 24
第4講 風景の誕生とピクチャレスク (視覚革命 3)	- 26
Sketch Workshop Lecture 4	- 32
西方への旅 I - Toscana+Rome+South Italy	- 34

Lecture 5/6/7

第5講 記憶装置としての廃墟と遺跡	- 38
Sketch Workshop Lecture 5	- 44
第6講 創られた伝統 ゴシック vs クラシック	- 46
Sketch Workshop Lecture 6	- 52
第7講 美しさを問い直す アール・ヌーヴォーとエコロジー	- 54
Sketch Workshop Lecture 7	- 60
西方への旅 2 - Christopher Wren+London	- 62

Lecture 8/9

第8講 トルコからイギリスへ 鉄と近代建築の出会い	- 66
Sketch Workshop Lecture 8	- 72
第9講 ローマからフランスへ 鉄筋コンクリートと近代建築の出会い	- 74
Sketch Workshop Lecture 9	- 80

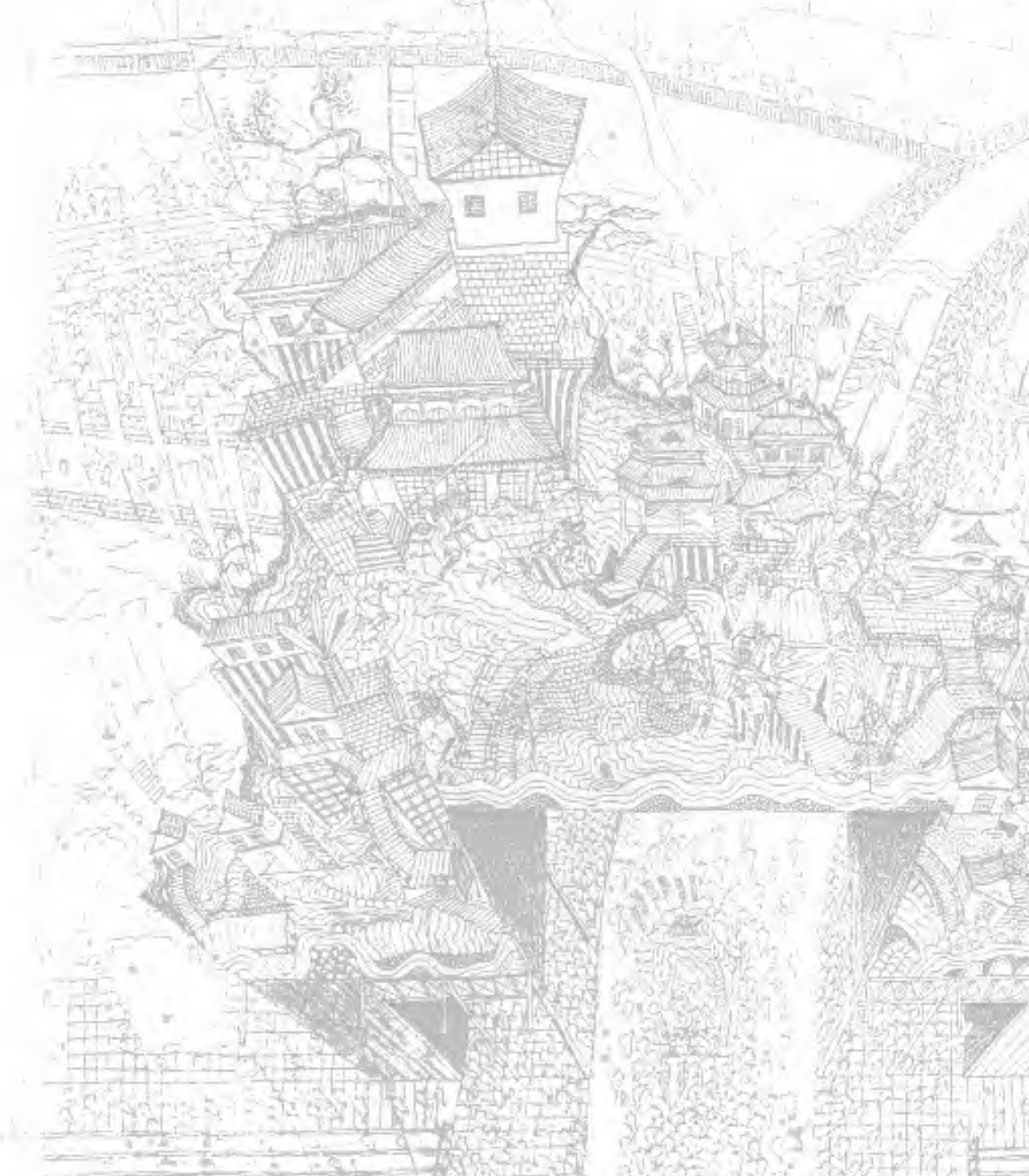
Lecture 10/11

第10講 憧れからライバルへ	
建築家ル・コルビュジエ (近代建築の巨匠 1)	- 82
Sketch Workshop Lecture 10	- 88
第11講 建築も都市も生きている	
建築家フランク・ロイド・ライトの有機的建築 (近代建築の巨匠 2)	- 90
Sketch Workshop Lecture 11	- 96
西方への旅 3 - Le Corbusier	- 98

Lecture 12/13/14

第12講 集まって住むこと 理想の共同体を求めて	- 102
Sketch Workshop Lecture 12	- 108
第13講 建築家になるために 建築家教育の彼岸	
AA スクールとジョサイア・コンドル	- 110
Sketch Workshop Lecture 13	- 116
第14講 命ある近代建築との共振=エンパシー 保存と再生に向かって	- 118
Sketch Workshop Lecture 14	- 124
西方への旅 4 - Paris+Brno+Prague	- 126
Constellation of Architectural Culture 建築文化の星座	- 130
あとがき	- 132
図版出典リスト	- 134
索引	- 138

Lecture 1



1986年、日本大学大学院時代に友人と連名で提出したホクストン装飾コンペ（テーマはシティ・ゲート）の佳作入選案。出身地の博多祇園山笠を取り上げ、祭りの中、集団山見せが博多と福岡の境界である那珂川の中洲を越える瞬間に、街が一体となるゲートのイメージを描いた。一枚の絵ですべての考えを伝えることを意識した。

「猿の児が木登を習うようにわたくしは青年時代に“もよう”を描くことを習ったのであった。ジャン・ジャック・ルソーが楽譜をかくことを習ったようにとでもいいかたしれない。エジプトから、ギリシア・ローマ、中世、バロック・ロココなどを、くりかえし、くりかえし、かいたものだった。おかげで、“もよう”かくのには苦勞がない。黒板に描く絵などを、うらやましそうに、ただ眺めていつている学生などもおるが、そんなときは、わたくし自身もたのしいときだ」(今和次郎)

「諸君の旅行に常に持ち歩くべき画帳にそれらを描き、暇があれば常に諸君の目や手を動かす必要がある。形態 (*form*) をスケッチするのに最上の学習は人体である。なぜならばその比例関係 (*proportion*) は最も美しく、その輪郭は自然に存在する形態中最も精妙であり、かつ優美であるからだ (中略) 常に鉛筆を握って透視図あるいはフリーハンドのスケッチを行ない、目の訓練がなされることによって、良い結果が生まれるのである。これをなすことによって、単純な輪郭または幾何学的表現によって十分に諸君は具体的な表現を行うことができる」(ジョサイア・コンドル)

「立派な装飾上の仕事をする能力は、想像力の訓練だけでなく、手の訓練を絶えずすることによってはじめて達成され得るのである。その訓練は、手品師が、受けねばならぬ訓練ほどの注意力のいるつらい訓練であって、それは手に取るように明白な仕事上のさまざまな困難を克服するためにするのである」(ジョン・ラスキン)

「他の視覚的な実践の場合と同じように、建築用のスケッチはしばしば可能性の像である。つまり手描きによって可能性を結晶化し精緻化してゆく過程で、建築家はちょうどテニス選手やミュージシャンと同じように前進し、その過程に深く関わり、それについての思考を成熟させてゆく」(リチャード・セネット)

Reference Books

- 渡邊研司、ロンドン都市と建築の歴史、河出書房新社、2009
高山宏、近代文化史入門、講談社学術文庫、2007
高山宏、カステロフィリア記憶・建築・ピラネージ、作品社、1996
松岡正剛、情報の歴史を読む、世界情報文化史講義、NTT出版 1997
若桑みどり、イメージの歴史、ちくま学芸文庫、2012
アーサー・O. ラヴジョイ (内藤健二訳)、存在の大いなる連鎖、ちくま学芸文庫、2013
バーバラ・スタフォード (高山宏訳)、ヴィジュアル・アナロジー、産業図書、2006
バーバラ・スタフォード (高山宏訳)、実体への旅 1760年 -1840年における美術・自然と絵入り旅行記、産業図書、2008
マリオ・プラーツ (高山宏訳)、ムネモシュネ文学と視覚芸術との間の平行現象、ありな書房、1999
岩田誠、見る脳・描く脳 絵画のニューロサイエンス、東京大学出版会、1997
ジョン・ラスキン (高橋松川訳)、建築の七燈、岩波文庫、1991 (1930)
ジョン・ラスキン (川端康雄訳)、ゴシックの本質、みすず書房、2011
ジョン・ラスキン (内田佐久郎訳)、建築と絵画、改造社出版、1933
ジョン・ラスキン (小林一郎訳)、二つの道、玄黄社、1925 (1917)
長谷川堯、都市回廊 あるいは建築の中世主義、中公文庫、1985
リチャード・セネット (高橋勇夫訳)、クラフツマン 作ることは考えること、筑摩書房、2016

第1講 ガイダンス 講義のねらい

「先生、どうしたら建物のスケッチが描けるようになるんでしょう？」

私のゼミに入ってきた学生の多くが口にする言葉です。

「ん？まずは講義が退屈だと、先生の顔や友達の寝ている姿、自分の手を描いてみてごらん。窓の外の風景を描くのもいいね。あ、これパースの原理だよ。あるいは電車の中でスマホを見つめる代わりに人の姿を描いてごらん。そのうち手が自然と動くようになるよ」

と自分の講義はよそ見せずに聴いてくれているものと信じて学生に答えています。

建築を学ぶ学生にとって、あるいは日々建築や都市の姿にアイデアを凝らしている建築家にとって、あるいは建設現場で働く技術者にとって、スケッチすることの意義は何でしょうか。この講義では、このことを明らかにしていきたいと思います。ただ明らかにするだけでなく、ついでにスケッチが描けるようになり、講義のメモを取るようにスケッチを描きながら、現代社会の基盤となっている近代という時代の建築や都市に対する思想（考え方）や流れ（歴史）を学んでいくこと。この三つを同時にやってしまうというのが、この講義のちょっと欲張りなねらいです。

とはいえ、なぜ今の学生が透視図と言われるパースやスケッチを描かなくなったのでしょうか？私が学生だった頃の1980年代と現在の建築学科の授業において、最も異なっていることは、建築の平面図と立面図（断面図）をもとに、透視図を描く方法を学ぶ図学という科目がなくなったことがあげられます。私が学んだ日本大学理工学部建築学科では、1年生は習志野校舎でいわゆる教養課程の科目や設計製図の基礎を身につけるのですが、その中で1年間をかけてみっちり学ぶ図学という授業がありました。

大学によって差があるとはいえ、2000年くらいまで図学と呼ばれる講義は、残っていたと思われます【図1】。私自身、2001年から2002年の2年間、非常勤講師として東京立大学工学部の1年生に教えた経験があり、2003年以降、その授業がなくなってしまいました。

図学という科目が建築学科からなくなったその一つの要因は、日本に建築学科が工部大学校の造家学科（東京大学工学部建築学科の前身）として誕生して以来、長らく続けられていた設計図の作成が、手描きからCADに変わったことがあげられるでしょう。これは不思議なことではなく、一般社会での建築設計の図面作成自体が、1990年代後半から変わり始め、2000年代以降、もはや手描きで図面を作成している設計事務所や建設会社は、こだわりを持ったいわゆるアトリエ系の設計事務所を除いて、ほとんどないのではないかと思います。つまり、そのような社会情勢に建築教育を合わせたのであり、それが先に述べた私の体験となって現れたのです。

現在、ほとんどの私立大学や国公立大学の建築学科では、線の練習と称して設計製図の授業が行われており、シラバスの言うならば、基本的な建築図面の描き方を習得することで、図面そのものを読めるように（理解できるように）することが目的となっており、そこには簡単な模型を作成することも含まれています。また課題を自宅で行うためにA2版サイズの製図版を含めて、製図道具一式を購入することになっています。しかしながら、大学では、ワードやエクセル、イラストレーション、フォトショップなどでほとんどのレポート課題などを作成するので、図面作成も自然とそれらを使うようになります。また、大学によっては製図ツールソフトを取り入れた授業としてCADを使えるように教えているところもあります。したがって、2年生、3年生となるにつれて、建築設計課題の図面表現は、優秀な学生ほどCADなどを使って図面を作成しておりますが、内部空間を表現する図面は、そのほとんどが模型写真で代用しております。1年生の時に図学を学んだ私たちの世代は、課題の提出図面の中に透視図という指定があり、がつつりA1サイズに描いて提出させられました【図2】。

この平面図や立面図（断面図）から空間描写である透視図を作成すること、あるいは逆に透視図から平面図や立面



【図1】 芦原義信による法政大学での図学の授業風景



【図2】 オフィスの設計課題で描いた2点透視図

図（断面図）をたどること。この往復運動は、まさに建築家が最初に頭に浮かんだアイデアを形にする（絵にする）基本動作（OS）であります。しかも図学で学ぶ透視図法は、いわゆる「美的なセンスがあること」、「絵が得意であること」とは無関係で（あるに越したことはありませんが）、幾何学上の論理的なプロセスを経ることで誰でも描けるようになります。このプロセスさえ身体に覚えこませれば、後は自然に形をつかみ、陰影をつけ、材質感などの表現を加えることで、ほぼ見たままのスケッチが描けるようになります。

上野にある国立西洋美術館を含めて世界中で設計した作品が、2016年に世界遺産登録されたル・コルビュジェが若い頃、「東方への旅」【図3】と称して訪れたギリシアやトルコで残したカルネ（手帖）には、多くの建築、街並み、風景、平面図や断面図が、ある時は詳細に、ある時は大胆に描かれ、それに対する考察や印象がこと細かに書かれています【図4】。おそらくこの数年に及ぶル・コルビュジェ（その時はまだシャルル・エドワール・ジャンヌレという本名でした）の建築に対するスケッチという身体運動を通した思考方法で記された記録こそ、その後に展開される発想の基盤となっているのです。というのもル・コルビュジェは、この後出版した『建築へ』や『ウルバニスム』などの著作に東方への旅で描いたスケッチを掲載しています。

ル・コルビュジェは、建築を学ぶ前（彼は建築を専門とした学校には行っておりません）に、故郷のラ・ショー＝ド＝フォンという町の美術学校でデッサンの基本を身につけておりますし、その後、エコール・デ・ポザールというフランスの美術学校の教授が出版した本などで図法を独学で学んでおり、これについてはルネサンス時代のイタリア

の画家による絵画の構成を自らの空間構成に応用したという研究がなされています。ル・コルビュジェの建築作品や展覧会を見に行き、多くの彼に関する書籍を読むことはぜひ必要なことで、彼を題材とした建築学の教科書まで出版されており、むしろ積極的に学生に推薦していますが、本当に必要なことは、彼の建築理論を学ぶだけではなく、自ら旅に出て、建築や街並み、風景のスケッチを行い、場合によっては平面図や断面図を想像して描き、その考察や印象を記録するという、ル・コルビュジェがやった同じ身体運動を真似る（学ぶ）ことではないかと思えます。もう一人ル・コルビュジェより前に当時産業革命の最中で発展していたイギリスを訪ね、多くのスケッチを残しているドイツ人建築家であるカール・フリードリヒ・シンケルがいます。もしかするとル・コルビュジェは彼のことを意識していたのかもしれませんが。というのもスケッチやメモの感じがよく似ています【図5】【図6】。

ところで2045年には、シンギュラリティと呼ぶ人工知能（AI）社会が実現し、多くの職種が人間に代わってAIが行うことになるという予測が立てられております。すでに多くの建設会社や設計事務所はBIM（Building Information Modeling）という、それまでデザインのために描かれていた3次元パースを構造設計や設備設計情報の他、コストや仕上げなどを一つの情報として管理し、エコロジーで効率的な施工計画を人間に代わって立てたりすることが可能となっております。

建築の設計図はもちろんのこと、模型や完成パースなど、現在建築学科の学生に課せられているものは、実際社会に出れば、すべて製図機械がやることになり、建築家の役割はそれぞれ設計条件の最適値をプログラムソフトに入力するだけになるかもしれません。無論、施工もすべて建設機械が3Dモデルのように作るという社会になるのでしょ



【図3】ル・コルビュジェ 東方への旅(再構成版)表紙



【図4】ル・コルビュジェ 東方への旅内のスケッチ



【図5】シンケル イギリス旅行（著作版）表紙



【図6】シンケル イギリス旅行内のスケッチとメモ

Lecture 2



2006年にギリシア、イタリアをめぐる海外研修旅行の引率で訪れたフィレンツェのサンタクロッチェ教会回廊。学生とともに各自気に入ったアングルでスケッチを行なった。普通の見方だと画面に入らないので、パースを強調して回廊全体を描いた。

Study Points

1. 透視図はどのように誕生したのか？
2. ブルネレスキが行なった実験とは？
3. ブルネレスキはどのような建築をデザインしたのか？
4. 古代、中世、近代のものの見え方は違うのか？
5. グリッドと印刷術の発明の影響とは？

Reference Books

- 大澤真幸、世界史の哲学 古代編、講談社、2011
- 大澤真幸、量子の社会哲学 革命は過去を救うと猫がいう、講談社、2010
- E. パノフスキー（木田元監訳）、象徴形式としての遠近法、ちくま学芸文庫、2009
- 大林信治、山中浩司編、視覚と近代—観察空間の形成と変容、名古屋大学出版会、1999
- モリス・クライン（中山茂訳）、数学の文化史 上、現代教養文庫、1977
- 仲田紀夫、数学のドレミファ エッフェル塔で数学しよう 数学の世紀（2）フランス編、黎明書房、1992
- 布施英利、遠近法（パース）わかれば絵画がわかる、光文社新書、2016
- 岡崎乾二郎、ルネサンス 経験の条件、文藝春秋、2014

Lecture 3



1986年3月、初めて一人で行った西方ヨーロッパへの旅で、ヴェニス・サンジョルジョ・マッジョーレ島のパツラーディオによる教会を対岸からスケッチした。手前にヴェニスのゴンドラを入れることによって遠近感を強調した。

1986 3.30 S. GIORGIO MAGGIORE

Study Points

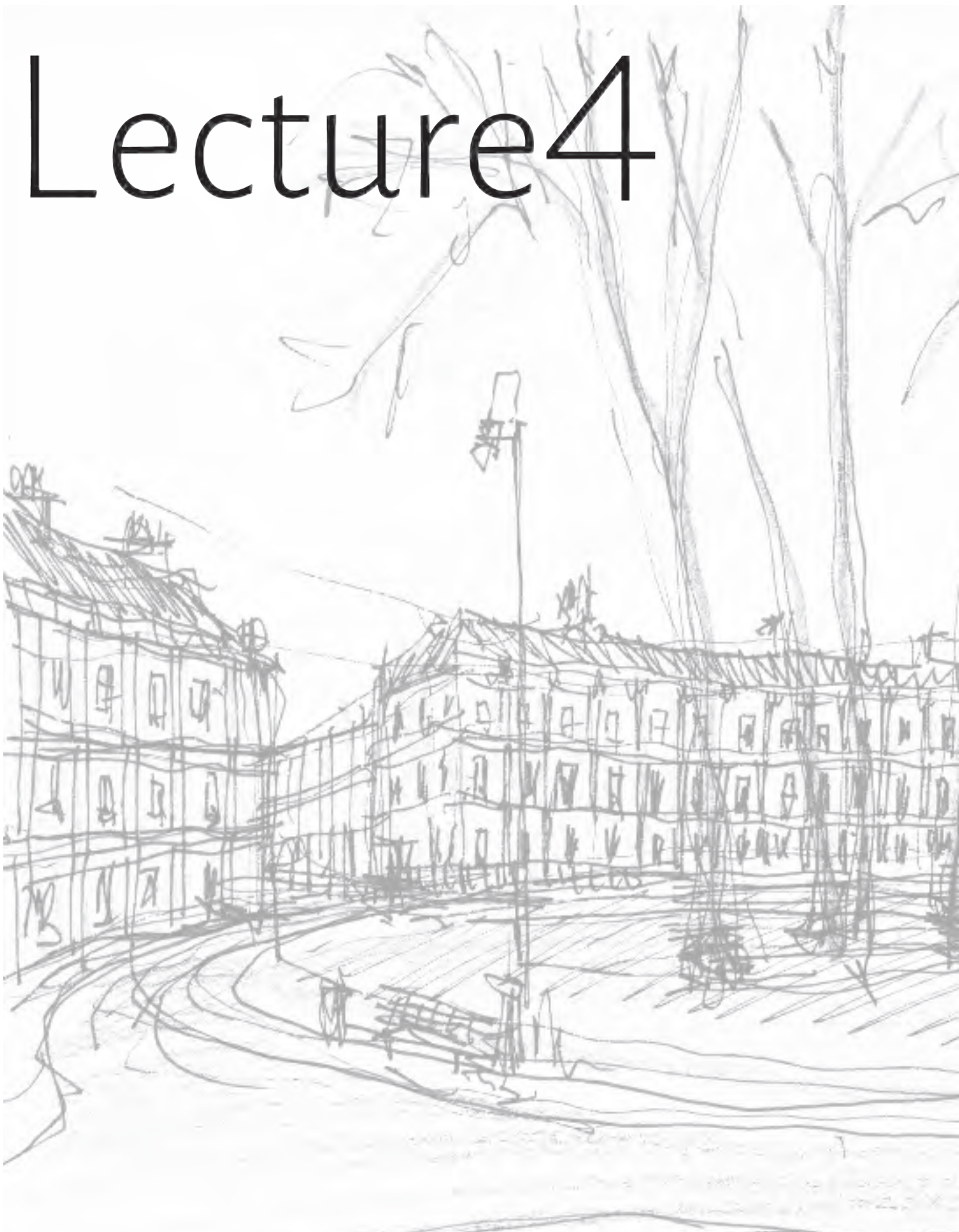
1. ソーンのドローイングはなぜ不思議なのか？
2. ソーンのドローイングにはどのような思いが込められているのか？
3. ソーンはどのような建築をデザインしたのか？
4. ベラスケスの絵に込められたこととは何か？
5. なぜ画家は自画像を描くようになったのか？



Reference Books

- E. パノフスキー（木田元監訳）、象徴形式としての遠近法、ちくま学芸文庫、2009
M. フーコー（渡辺一民他訳）、言葉と物〈新装版〉人文科学の考古学、新潮社、2020
アンドレ・パラディオ（桐敷真次郎訳）、パラディオ 建築四書注解、中央公論美術出版、1997
高山宏、カステロフィリア 記憶・建築・ピラネージ、作品社、1996
磯崎新、篠山紀信（写真）、サー・ジョン・ソーン美術館、19世紀（磯崎新の建築談義 11）、六曜社、2004

Lecture 4



1994年1月、AAスクールで仲良くなったベネズエラの友人と一緒に訪れたパースの街並みで、サーカスという広場を中心とした円形になった家並みに感動したことを思い出す。その後パースには、2017年までに5回ほど訪れた。

12.18.93.

Study Points

1. イギリスとフランスで庭園の様子が異なるのはなぜか？
2. 庭園と政治はどのように関わっているのか？
3. ピクチャレスクとは何か？
4. スケッチすることはなぜ広まったのか？
5. 風景式庭園と幾何学式庭園にはどのようなものがあるのか？

Reference Books

川崎寿彦、楽園と庭 イギリス市民社会の成立、中公新書、1984

川崎寿彦、庭のイングランド、名古屋大学出版会、1997

川崎寿彦、森のイングランド、平凡社、1997

高山宏、近代文化史入門 超英文学講義、講談社学術文庫、2007

B. スタフォード (高山宏訳)、実体への旅 1760年—1840年における美術、科学、自然と絵入り旅行記、産業図書、2008

岡田温司、グランド・ツアー 18世紀イタリアへの旅、岩波新書、2010

SD198404 特集 庭園 虚構仕掛のワンダーランド、鹿島出版会、1984

BATH. CIRONS.

Lecture 5



2006年40名ほどの学生を引率した研修旅行のローマでの自由時間に、学生数名と訪れたハドリアヌスの別荘にあった廃墟を描いたスケッチ。ローマの中心フォロ・ロマーノとは異なる、あたかも時空を超え造られたかのような庭園に感じられた。

Study Points

1. ソーンのドローイングはなぜ不思議なのか？
2. 廃墟に込められた意味とは何か？
3. 廃墟の魅力とは何か、その時代背景とは？
4. 崇高という感覚はどのようなものなのか？
5. ソーンの自邸とはどのようなものなのか？



Reference Books

- 高山宏、近代文化史入門 超英文学講義、講談社学術文庫、2007
B. スタフォード、実体への旅（高山宏訳）1760年ー1840年における美術、科学、自然と絵入り旅行記、2008
岡田温司、グランド・ツアー 18世紀イタリアへの旅、岩波新書、2010
加藤耕一、時がつくる建築 リノベーションの西洋建築史、東京大学出版会、2017
磯崎新、篠山紀信（写真）、サー・ジョン・ソーン美術館、19世紀（磯崎新の建築談義 11）、六曜社、2004
高山宏、カステロフィリア 記憶・建築・ピラネージ、作品社、1996

Lecture 6



1986年3月一人旅で立ち寄ったミラノのカテドラルとガレリアを描いたスケッチ。ゴシックのもつ垂直性と山形の全体構成が見て取れる。この頃から意識的に人間を描きこみ、スケール感を身につけようとした。

Study Points

1. ゴシックとクラシックとの違いとは何か？
2. 19世紀におけるナショナリズムとは何か？
3. ラスキンはなぜゴシックを重要視するのか？
4. 建築における伝統とは何か？
5. ゴシックあるいはクラシックがどのようにモダン・デザインとつながるのか？



Reference Books

- B. アンダーソン (白石隆他訳)、想像の共同体ナショナリズムの起源と流行、書籍工房早山、2007
エリック・ホブズボウム他編 (前川啓治他訳)、創られた伝統 紀伊国屋書店、1992
クリス・ブルックス (鈴木博之他訳)、ゴシック・リバイバル (岩波世界の美術)、岩波書店、2003
塩川伸明、民族とネーション-ナショナリズムという難問、岩波新書、2007
福井憲彦、近代ヨーロッパ世界を変えた19世紀、ちくま学芸文庫、2010

1986. 5. 31. DUOMO MILANO

Lecture 7



1998年留学時の最後の夏に訪れたバルセロナのガウディによるカサミラの屋上。その奇怪な風景は、2013年に研修旅行で訪れたモンセラートの岩山の姿を見て納得できた。

Study Points

1. アール・ヌーヴォーという芸術運動はどのようなものか？
2. 生物学とデザインがなぜつながるのか？
3. ヘッケルとは何をした人なのか？
4. 一元論とは何か、系統樹的発想とは何か？
5. アール・ヌーヴォーの建築にはどのようなものがあるのか？

Reference Books

- ヨハン・ヴォルフガング・フォン・ゲーテ (木村直司訳)、ゲーテ形態学論集・動物編、ちくま学芸文庫、2009
- ヨハン・ヴォルフガング・フォン・ゲーテ (木村直司訳)、ゲーテ形態学論集・植物編、ちくま学芸文庫、2009
- ルドルフ・シュタイナー (高橋巖訳)、ルドルフ・シュタイナー 100冊のノート、筑摩書房、2002
- ルドルフ・シュタイナー (西川隆範訳)、ゲーテ精神世界の先駆謝、アルテ、2009
- 三中信宏、進化思想の世界、ヒトは森羅万象をどう体系化するか、NHK ブックス、2010
- 佐藤恵子、ヘッケルと進化の夢、一元論、エコロジー、系統樹、工作舎、2015
- 池田清彦、進化論の最前線、集英社インターナショナル新書、2017
- エルンスト・ヘッケル (戸田裕之訳)、生物の驚異的な形、小島郁生監修、河出書房新社、2009
- 三木成夫、生命形態学序説 根原形象とメタモルフォーゼ、うぶすな書院、2007 (1992)

Lecture 8



エディンバラのフォース湾にかかる巨大な鉄橋フォースブリッジ。電車が通るたびに轟音が鳴り響き、まるで3頭の鉄骨でできた巨大な恐竜が尻尾を加えてフォース湾を渡っているかのような姿を想像させる。スコットランドの子供達はこんな風に想像力を豊かにしていったのだろうか。

Study Points

1. 建築家にとって歴史を学ぶ意義とは何か？
2. 鉄の文明史的な重要性とは何か？
3. 産業革命はなぜイギリスで起こったのか？
4. クリスタル・パレスの意義とは何か？
5. 世界遺産になっている鉄橋や駅舎にはどのようなものがあるのか？



Reference Books

- ケネス・フランプトン (松畑強+山本想太郎訳)、テクトニック・カルチャー 19-20世紀建築の構法の詩学、TOTO 出版、2002
中沢護人、鋼の時代、岩波新書、1964
大和久重雄、鋼のおはなし、日本規格協会、1984
内藤廣、構造デザイン講義、王国社、2009
難波和彦、メタル建築史、SD 選書、2016
松村昌家、大英帝国博覧会の歴史、ミネルヴァ書房、2014
高橋俊介、巨大高層建築の謎、サイエンスアイ新書、2008
高遠竜也、「鉄」の科学、秀和システム、2009

Lecture 9



世界遺産となったル・コルビュジエ作品群の中で唯一の都市計画である、インドのパンジャブ州の州都チャンディガールのキャピタルと言われる地区にある議会棟と奥の行政棟のスケッチ。コンクリートの荒々しさがインドの気候風土とマッチしており、巨大な底の形状は前川國男などの造形に影響を与えたとされる。

Study Points

1. コンクリートを使った古代の建築にはどのようなものがあるのか？
2. 鉄筋コンクリート（RC）はどのように誕生したのか？
3. オーヴ・アラップとリュベトキンによる RC 造建築にはどのようなものがあるのか？
4. RC 造建築の空間的特徴とは何か？
5. トータル・デザインとは何か？



Reference Books

- 内藤廣、構造デザイン講義、王国社、2009
神田順編、ヴィジュアル版建築入門 3 建築の構造、彰国社、2002
川口衛他編、建築の絵本、建築構造のしくみ カの流れとかたち、彰国社、1990
齋藤公男、空間・構造・物語—ストラクチャル・デザインのゆくえ、彰国社、2003
E. トロハ、エドゥアルド・トロハの構造デザイン（川口衛他訳）、相模書房、2002
エイドリアン・フォーティ（坂牛卓他訳）、メディアとしてのコンクリート、鹿島出版会、2016

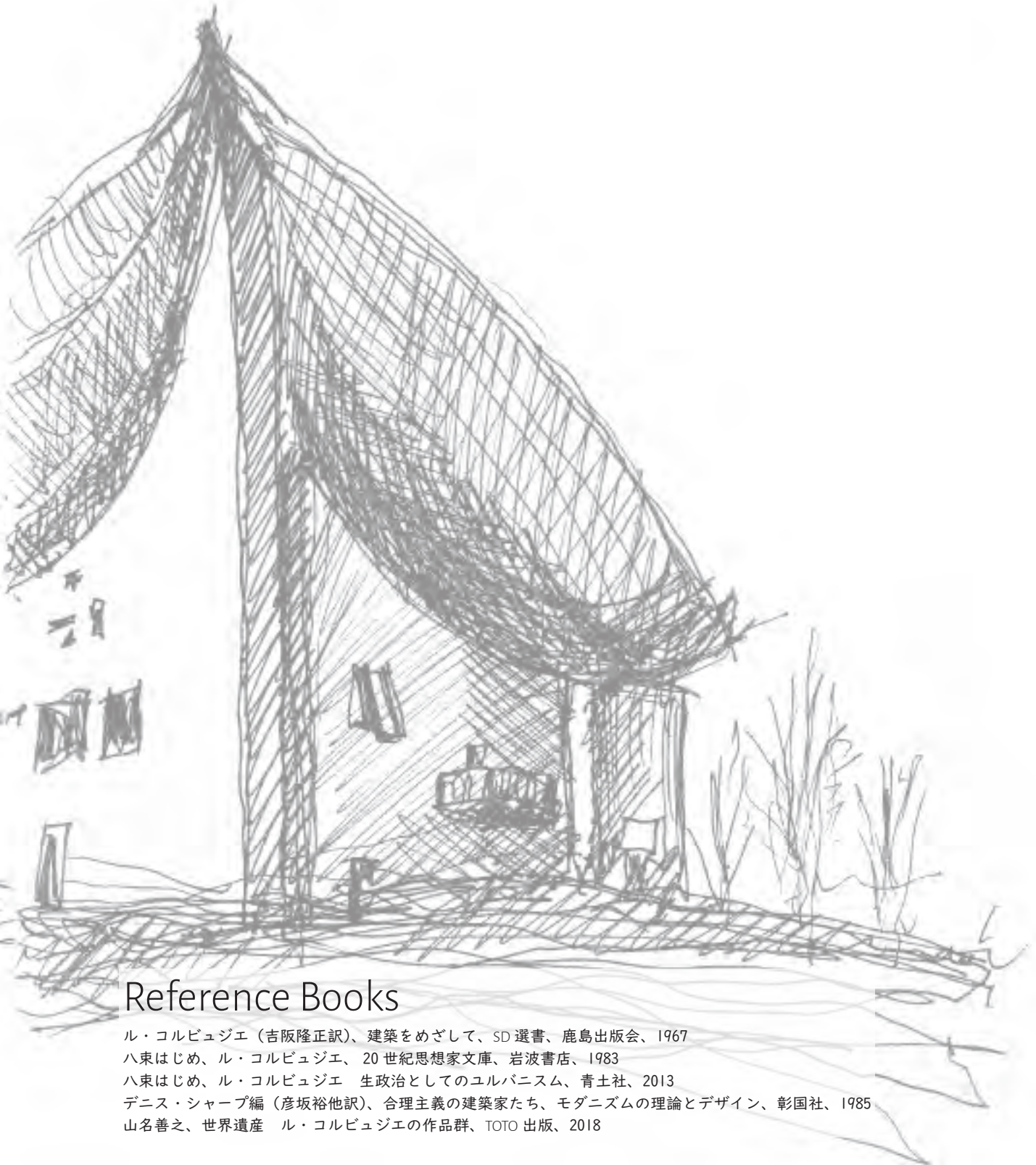
Lecture10



ル・コルビュジエによる後期の代表作品であるロンシャン教会のスケッチ。1996年9月、イギリス留学中に行ったル・コルビュジエ巡礼の旅で最初に訪れた建築。いろいろな見え方がして興奮しながら夢中でスケッチした。

Study Points

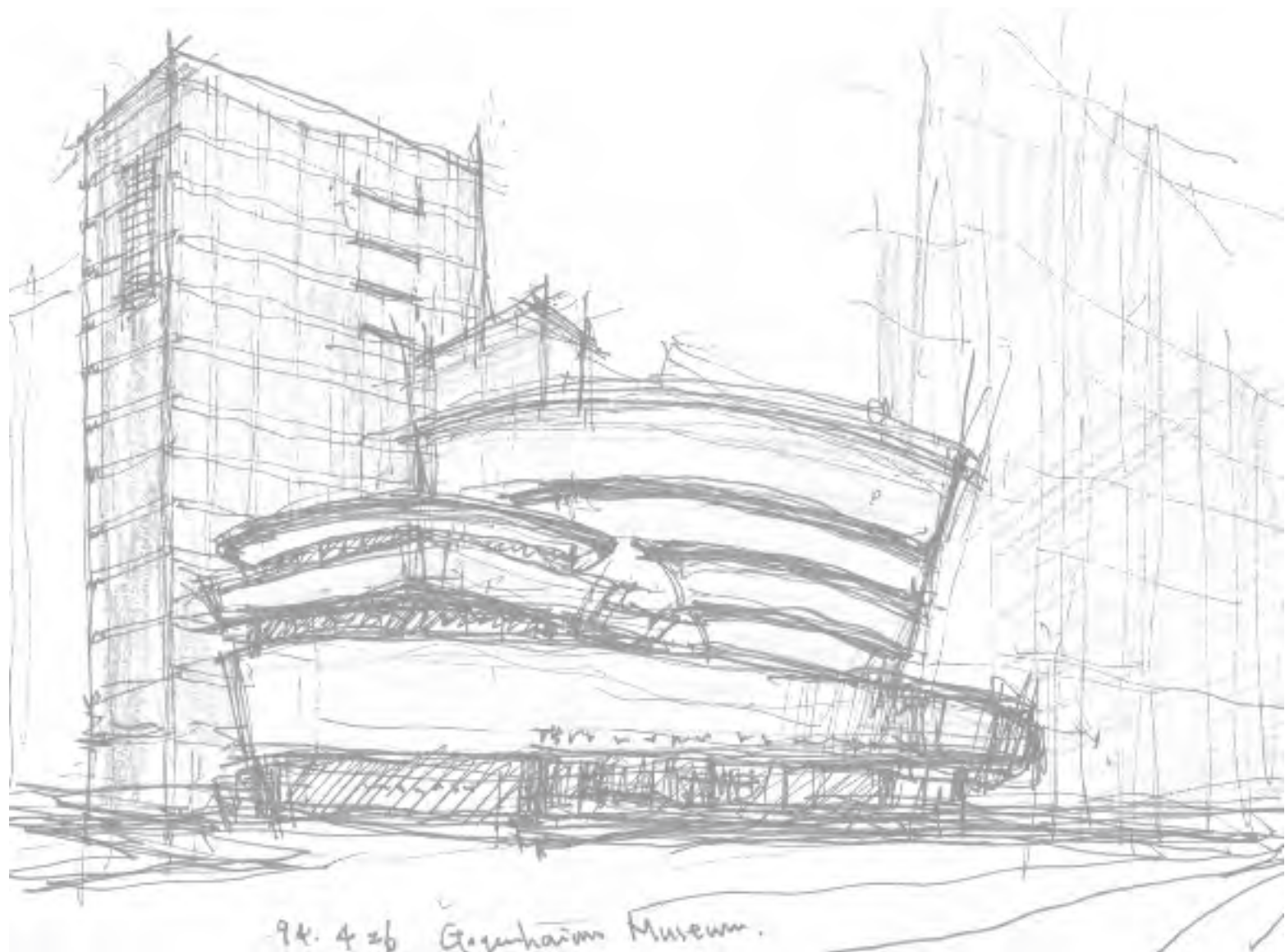
1. ル・コルビュジエの作品はなぜ世界遺産となったのか？
2. 近代建築の5原則はどのような点が新しいのか？
3. リュベトキンによるル・コルビュジエへの返答とは何か？
4. ハイポイント1の特徴とは何か？
5. なぜ近代の建築家にはユダヤ人が多いのか？



Reference Books

- ル・コルビュジエ (吉阪隆正訳)、建築をめざして、SD 選書、鹿島出版会、1967
八束はじめ、ル・コルビュジエ、20 世紀思想家文庫、岩波書店、1983
八束はじめ、ル・コルビュジエ 生政治としてのユルバニスム、青土社、2013
デニス・シャープ編 (彦坂裕他訳)、合理主義の建築家たち、モダニズムの理論とデザイン、彰国社、1985
山名善之、世界遺産 ル・コルビュジエの作品群、TOTO 出版、2018

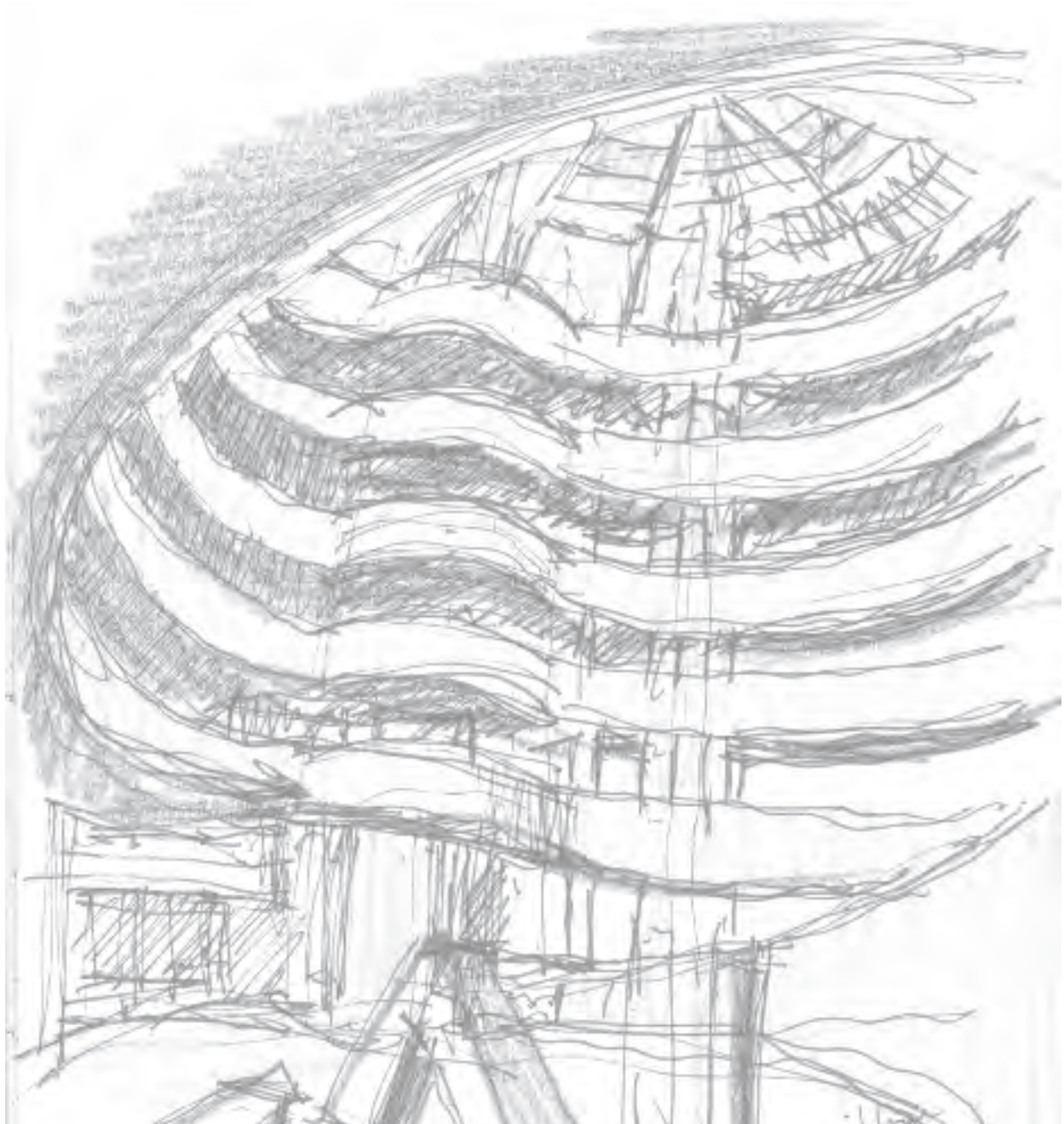
Lecture 11



1994年11月、AAスクール大学院留学中にスクールトリップで訪れたニューヨークで描いたグッゲンハイム美術館の外観と内部のスケッチ。この時はニューヨークだけでなく、7人の友人たちとレンタカーを借りて1泊2日のまさに弾丸ツアーでバッファロー郊外にある落水荘を見に行った。

Study Points

1. プリミティブハットとは何か？
2. 自然と建築との形にある関係性とは？
3. 機能主義とは何か？
4. フランク・ロイド・ライトの有機的建築とは？
5. 建築と音楽との関係性とは？



Reference Books

- ロージェ (三宅理一訳)、建築試論、中央公論美術出版、1986
オルギヴァンナ・ライト (遠藤楽訳)、ライトの生涯、彰国社、1977
フランク・ロイド・ライト (富岡義人訳)、自然の家、ちくま学芸文庫、2010
フランク・ロイド・ライト (三輪直美訳)、有机的建築 オーガニックアーキテクチャー、筑摩書房、2009
ケヴィン・ニュート (大木順子訳)、フランク・ロイド・ライトと日本文化、鹿島出版会、1997
谷川正巳、フランク・ロイド・ライトの日本 浮世絵に魅せられたもう一つの顔、光文社新書、2004
ブルース・ブルックス・ファイファー (渡邊研司訳)、フランク・ロイド・ライト (コンパクトミディ・シリーズ)、タッセン、2003
ルイス・サリヴァン (竹内大他訳)、サリヴァン自伝 新装版、鹿島出版会、2012

94. 4. 28 Solomon R. Guggenheim Museum

Lecture12



1993年8月、エディンバラの語学学校の友人たちと小旅行をして、その後、別れて一人で訪れたニューラナークを望む丘から描いたスケッチ。文化遺産としてのユートピア都市のあり方を伝えている。

Study Points

1. なぜ建築家たちは集まって住むことにこだわるか？
2. 田園都市という発想が生まれた理由とは？
3. 日本における田園都市の影響とは？
4. ユニテ・デビタシオンとはどのようなデザインなのか？
5. リュベトキンはなぜハイポイント2にカリアティドをデザインしたのか？



Reference Books

- エベネザー・ハワード（山形浩生訳）、〔新訳〕明日の田園都市、鹿島出版会、2016
西山八重子、イギリス田園都市の社会学、ミネルヴァ書房、2002
エドワード・ベラミー（山本正喜訳）、顧みれば、岩波文庫、1953
内務省地方局有志、田園都市と日本人、講談社学術文庫、1980

Lecture13



1996年4月、AAスクール大学院留学中に、モダンデザインの源流を知るためにドイツの近代建築を巡った旅で、世界遺産となった Dessau のバウハウスの校舎を描いたスケッチ。

BAUHAUS. DESSAU. 4.3.98

Study Points

1. 建築を学ぶ上での「そもそも論」とは何か？
2. なぜ建築家は職能と言われるのか？
3. なぜAA（スクール）が誕生したのか？
4. コンドルがAAで学ぶことで何を身につけたのか？
5. 建築は芸術なのか科学なのか？



Reference Books

スピロ・コストフ編（榎文彦監訳）、建築家—職能の歴史、日経アーキテクチャ、1981
フランク・ジェンキンス（佐藤彰他訳）、建築家とパトロン 16世紀から現代までの建築家の職能と実務の史的研究、1977、鹿島出版会
ニコラス・ペヴスナー（吉田綱市訳）、19世紀の建築著述家たち、中央公論美術出版、2016
瀬口哲夫、英国建築事情 上・下、企業組合建築ジャーナル、1991
近江栄、建築設計競技 コンペティションの系譜と展望、鹿島出版会、1986
渡邊研司、図説ロンドン都市と建築の歴史、河出書房新社、2009

Study Points

1. 命ある建築とは何か？
2. DOCOMOMO とは何か？
3. ゲデスの取り組んだこととは何か？
4. メタボリズム運動とは何か？
5. メタボリズム的保存とは何か？



City in Autopoietic Evolution from 1900 to 2050

THE COMPOSITE MIND

A Suggestion for the Principal MULTI-DISCIPLINE Linkages
Necessary to Achieve Comprehensive Environmental Development

2025-2050

Composite Function of Algorithm Programs

Partial composition is possible for multivariate functions.
The function resulting when some argument x_i of
the function F is replaced by the function g is called composition of
 F and g .

Keywords:
Theory of
Analysis

Reference Books

- ニーチェ (小倉志祥訳)、ニーチェ全集 4 反時代的考察、ちくま学芸文庫、1993
文化遺産としてのモダニズム建築 DOCOMOMO 100 選展、汐留ミュージアム、2005
大川三雄・渡邊研司、DOCOMOMO 100 + α、河出書房新社、2007
松隈洋、近代建築を記憶する、建築資料研究社、2005
加藤耕一、時がつくる建築 リノベーションの西洋建築史、東京大学出版会、2017
モーゼン・ムスタファヴィ (黒石いずみ訳)、時間のなかの建築、鹿島出版会、1999
クリストファー・アレグザンダー (中埜博訳)、ザ・ネイチャー・オブ・オーダー
建築の美学と世界の本質、生命の現象、鹿島出版会、2013
モーゼン・ムスタファヴィ デヴィッド・レザポロー (黒石いずみ訳)、時間の
なかの建築、鹿島出版会、1999
田原幸夫、笠原一人他、建築と都市の保存再生デザイン 近代文化遺産の豊かな継
承のために、鹿島出版会、2017



あとがき

ようやくこの本をめぐる長い旅が終わろうとしております。思い起こせば本当にいろんなことがあった中での誕生となります。2019年末から突如始まったコロナ禍による家庭や職場における生活スタイルの一変は、誰も想像だにできず、有効な対策が立たない苛立ちやストレスの中、2020年の東京オリンピック・パラリンピックや、私に関わっていた東京上野地区にある近代建築を会場として開催されることになっていた DOCOMOMO 国際会議も1年の延期を余儀なくされ、オリンピック・パラリンピックは無観客で、一方、国際会議は一部セレモニーを除き研究発表は、全てオンラインとなりました。このことは、人間と人間、人間と建築、建築と建築との関係が、感染症によって全く変わってしまうという現代社会の抱える問題を私たちに投げかけました。しかし、このような災禍は過去幾度も繰り返し起こっており、歴史上一番有名な14世紀、ヨーロッパを中心に猛威を振るったペストの後には、ルネサンスという人間復興が始まったように、人類はパンデミックとある意味共存しながら、進化していったことがわかります。

そのような意味で、オンラインでの国際学術会議の開催という試みは、空間的、時間的な障壁や距離感あるいは接触という触覚的な感覚をなくした、人類の知的活動の公開に対する新しいあり方や可能性を示すことができた一方で、現地を実際に訪れ、建築や人間の行為に触れる（例えば握手をする）という身体的体験の機会が得られなかったという喪失感をもたらしました。このようなコロナ禍の活動をいい面も悪い面も経験することで、近年、CADやAIによってその喪失に拍車がかかっている建築そして都市に対する私たちが有する触覚的な感覚や感性を、やはりもう一度取り戻す必要性を改めて感じたのは私だけでないはずです。

一方、この本の構想は、私自身、東海大学でのこれまで15年に及ぶ教育や研究において、先に述べたような人間が有する身体的な感覚、すなわち手を動かしてスケッチすることの大切さを授業に取り入れることができるといふ思いが膨らんでくるなか、2010年代からカリフォルニア、サンディエゴのニュースクール建築学校とアメリカ建築家協会（AIA）、生命科学研究所として有名であり、その研究所の建築の設計をルイス・カーンが行ったことでも知られるソーク生物学研究所が共同で設立した「建築のための神経科学学会（ANFA）」が、脳科学（ブレインサイエンス）、神経科学（ニューロサイエンス）、認知科学（コグニティブサイエンス）など、科学として人間の感覚や感性、感情と建築空間やデザインプロセスを結びつけようとしていることを知りました。この生命科学分野への知的好奇心は、薬化学・薬理学系の研究者であったにも関わらず、文学や歴史、芸術に対して幅広い知識と関心を有していた父や兄の影響があったかもしれません。いずれにせよ、これからの建築の進むべき道は神経建築学（ニューロアーキテクチャ）ではないかと直感しつつ、自らが行ってきた保存や再活用を含めた近代建築史研究の成果と新しい建築のあり方、すなわち理論と実践をなんとか結びつけたいという執念によって、この本は誕生したとも言えます。

つまり、本の中で取り上げた建築家バーソルド・リュベトキンとの偶然かつ運命的な出会いから知的探求の歯車は回りだし、最初に語学研修で訪れたスコットランドのエディンバラで19世紀に始まった進化論の思想を都市の改良や調査に適用した、パトリック・ゲデスによる保存手法や理念の研究を行うことで、留学先のAAスクールでの建築教育や資格制度とイギリスからそれらの制度と教育内容を取り入れた日本の建築家たちを調べることにつながり、ジョ

ン・ラスキンやル・コルビュジエ、そしてジョサイア・コンドルらが残したスケッチへの感動が知的関心となっていきました。すなわち、この本は私自身の知的冒険のスケッチノートに他なりません。

そして、この本は、東海大学の学生による献身的な働きなしには、誕生することはなかったと言えます。特に私の研究室に所属した大学院2年生であった笹川武秀さんは、4年生時のシュルレアリスムの芸術手法を取り入れた卒業設計から始まり、日本におけるシュルレアリスム芸術運動とモダニズム建築との影響を修士研究として行いながら、学部生を対象に行ったスケッチワークショップのデータをまとめ、各講の扉レイアウトや西方への旅、図版作成に協力してくれました。指導教員の他大学への移動により、大学院2年次から私の研究室の所属となった山田弦太郎さんは、卒業論文を発展させ、イスラーム建築に見られるムカルナス装飾をアルゴリズムを使って3次元的に分析するというユニークかつ精緻な修士研究を行いながら、そのデータ処理能力を遺憾なく発揮して、クラウド上に完璧な掲載図版リストを作って編集部とやりとりをし、図版作成及び年表に関するアイデアを出してくれました。卒研究生であり、現在大学院生となった小山裕史さんには、第7講で取り上げたアール・ヌーヴォーにおけるヘッケルとルネ・ビネとの影響関係を詳細に調査し、卒業論文としてまとめながら、その成果の一部を本文中にも紹介すると同時に図版作成を行ってくれました。さらに小山さんは2人の大学院生が卒業した後、すべての編集及びレイアウト作業を受け継ぎ、多くの時間を割いてくれました。そのご褒美だったのでしょくか、小山さんの卒業論文は、建築学科内の優秀論文賞として選ばれ、続いて2021年度の日本建築学会優秀卒業論文賞を受賞することができました。このことは私にとって指導者冥利につきるのはいまでもありませんが、2008年に出版した初めての著書『論文はデザインだ！』で取り上げた研究室に所属した学生による卒業論文も、その前年に同じ日本建築学会優秀論文賞を受賞しており、若い世代の研究成果と出版が関わり合えたということの方が喜びが大きく、建築と出版との不思議なつながりを感じさせてくれます。さらに、建築文化史という授業を受講し、スケッチワークショップに参加して熱心にスケッチを描いてくれた東海大学建築学科の学生のみなさんにも感謝いたします。

そして、この本の意義を理解していただき、出版の機会を与えていただいた理工図書株式会社代表取締役の柴山斐呂子様をはじめ、編集を担当された社員の皆様に感謝いたします。付け加えるなら、理工図書は、学生時代に使っていた建築計画に関する教科書の出版社であり、たまたま最初の編集の方が東海大学出身であったという、奇跡的な人とのつながりを感じざるを得ません。

最後に、いつもマイペースで仕事を続ける私を我慢強く見守ってくれている妻と二人の娘、そして90歳を越えても、福岡の実家を大切に守ってくれている母に尊敬の念とともに感謝いたします。

2021年10月

還暦の誕生月を迎え、新たな知的冒険の旅を夢見つつ



索引

- アルファベット**
- A**
AI……………7, 58
- B**
BIM……………7
- C**
CIAM……………85
- D**
DOCOMOMO……………121
- M**
M25……………104
- R**
RIBA……………113, 114
- T**
TECTON……………77
- 和文**
- あ**
アーツ・アンド・クラフツ運動……………51, 105, 115
アールデコ博……………86
アール・ヌーヴォー……………56, 58, 94
アイアンブリッジ……………72
アイアンロード……………69
アイルソン・ナサニアル……………30
アイントホーヘン工科大学……………121
アウトルックタワー……………122
アクロポリス……………42
アキナス, トマス……………48
アダム, ロバート……………80
アッシジ……………34, 35
アテネ……………44
アテネ憲章……………85, 87
アナトリア高原……………69
アラップ, オーヴ……………77, 79
アラン, ジョン……………77, 107
アルクルアーン……………14
アルベルティ, レオン・バッティスタ……………13, 17
アンウィン, レイモンド……………104, 106
アントワネット, マリー……………30
アンヌビク, フランソワ……………78
アンリ 4 世……………29
- い**
イギリス国会議事堂……………49, 51
イギリスの住宅……………105
イギリス風景式庭園……………30, 31
生ける都市……………95
イスタンブール……………69
イスラーム教……………14
いたざらきかんしゃちゅうちゅう……………120
一元論……………57
イングランド銀行……………21, 43
イングランド銀行鳥瞰図……………40
- う**
ヴァージニア大学キャンパス……………116
ヴァルハラ神殿……………52
ヴァレリー, ポール……………101
ヴァロア朝……………29
ヴィクトリア女王……………29
ヴィコンテ, ヴォー・ル……………29
ヴィツェンツァ……………23, 24
ウイトルウィウス……………77
ウィブスナード動物園……………86
ヴィラ・ロトンダ……………23, 24
ウィンザー……………29
ウィンザー朝……………29
ウェストミンスター……………49
ヴェニス……………18
ウェブ, フィリップ……………53
ヴェルサイユ宮殿……………28, 29, 30, 31, 32
ヴェルド, ヴァン・ド……………106, 116
内田祥三……………117
ウッズ親子, ジョン……………31
ウツォン, ヨーン……………81
ウッド, ヤンガー J.……………33
- え**
AA アーカイヴズ……………114
AA スクール……………26, 112, 113, 115
衛星都市……………104
エコール・デ・ボザール……………7, 115
エコロジー……………54, 58
エステティック (美学)……………41
エッフェル, ギュスターヴ……………73
エッフェル塔……………73, 126
エディンバラ……………25, 31, 50
エマソン……………94
エリス, ジュニア・ピーター……………72
遠藤新……………97
- お**
王立英国建築家協会……………113
大阪府立中之島図書館……………25
オーエン……………108
オーストリア・ハプスブルク家……………30
オールド・セント・ポール教会……………64

オールド・ロイヤル・ハイスクール
……………53
小川治兵衛…………… 30, 33
オステリア……………35
オスマン…………… 122
オスマントルコ……………69
オリエル・チャンパーズ・ビル…72
オルセー美術館…………… 126, 127
オルタ, ヴィクトール……………61
オルタ自邸……………61

か

カー, ロバート…………… 114
カースル・クーム……………33
カーテンの侍従……………22
ガール……………80
カール・ツァイス社……………57
絵画論……………13
ガウディ, アントニ…………… 54, 60
カサ・ミラ…………… 54, 60
カステル・ベランジュ……………61
カタルーニャ音楽堂……………60
カップマルタン ……98, 101, 106
カテドラル…………… 46, 48
カトリック……………28
カノーブス……………45
ガブリエル, アンジェ・ジャック32
カラカラ浴場……………42
カリアティド(女神像) …… 107
ガリレオ……………15
ガリレオ・ガリレイ……………15
カルテジアン・グリッド……………14
ガルニエオペラ座…………… 127
ガレリア……………46
ガンディ, ジョセフ……………20, 40, 43
観念論的哲学……………58
カンピドリオ広場……………36

き

規格化論争…………… 106
幾何代数学……………15
菊竹清訓…………… 122, 125
機能主義……………93

ギマール, エクトール……………61
ギャラリー・ペインティング
…………… 20, 23
キャンデラ, フェリックス… 79, 81
キャンベル, コーレン……………30
キューガーデン……………65
旧岩崎邸庭園…………… 116
旧甲子園ホテル……………97
旧体制(アンシャン・レジーム) 49
旧三菱1号館……………53
旧山邑邸…………… 73, 94
魚骨状原理…………… 14, 49
キリスト教……………14
ギンズブルグ, ジーン……………86
近代建築国際会議……………85
近代建築の5原則……………84, 86, 87

く

クィーンズハウス……………64
クィナーレ広場……………29
グーテンベルグ活版印刷……………15
グッゲンハイム美術館…………… 90, 97
グランドツアー
……………20, 23, 31, 40, 43, 106, 122
クリスタルパレス68, 71, 79, 104, 113
グリニッジ……………64
グレイ, チャールズ…………… 114
クレンツェ, レオ・フォン……………52
グロース・ジードルンク・ブリッツ
…………… 108
クロードグラス……………31
黒川紀章…………… 122, 123, 124
グロッタ(洞窟) ……31
グロピウス, ワルター……………86, 117
軍艦島(端島) ……45

け

啓蒙主義……………41
ゲーテ……………59
ゲデス, パトリック… 121, 122, 123
ゲルマン民族……………49
建築家登録法…………… 115
建築試論……………92

建築の七燈…………… 8
建築非芸術論争…………… 115
建築へ……………7, 85
原爆ドーム……………45

こ

工部大学校造家学科…………… 115
コート, ナイジェル…………… 113
コーラン……………14
ゴールダーズグリーン…………… 105
コールドールブルック鉄橋(アイア
ンブリッジ) ……70
コールハース, レム…………… 113
国際文化会館…………… 125
国民国家=ネーションステイト 105
国立西洋美術館……………7, 93
ゴシック・リバイバル運動……………51
ゴシック建築とスコラ学……………49
個人主義……………15
コッツウォルズ……………33
コロッセオ…………… 36, 42
コロネード島のヴィラ……………45
コンコルド・ゲート……………59
コンスタブル, ジョン……………31
コンスタンティンの凱旋門……………42
コンドル, ジョサイア
……………20, 51, 53, 114, 116, 123
コンポジットマインド…………… 71, 79
今和次郎…………… 8

さ

サー・ジョン・ソーン博物館……………20
サーカス……………26
最後の晩餐……………12, 13, 14
蔡倫……………15
サヴォワ邸…………… 87, 88, 127
坂倉準三…………… 41, 86
桜井小太郎…………… 114
サグラダ・ファミリア……………60
サックド・ローマ……………29
サピエンス全史……………68
サミュエリー, フェリックス……………77

- サリヴァン, ルイス・ヘンリー
81, 93, 94
- サルギナトーベル橋.....80
- サレルノ.....44
- サン・カルロ・アッレ・クワトロ・
 ファンターネ聖堂..... 23, 24
- サン・ジミニャーノ.....34
- サント・スピリト聖堂.....17
- サン・ピエトロ大聖堂..... 15, 35
- サン・ロレンツォ教会..... 17, 23
- サンジョバンニ礼拝堂.....14
- サンジョルジョ・マッジョーレ島
18
- サンタ・クロチェ教会.....16
- サンタ・マリア・デル・フィオーレ
 大聖堂.....13
- サンタ・マリア・ノッヴェラ教会
17
- し**
- ジードルンク・ブルッフフェルト通
 り..... 108
- シェンブルン宮殿.....32
- シエナ.....34
- ジェファーソン, トーマス
 23, 24, 116
- シェル.....78
- シティ地区.....42
- シデナム.....71
- シドニーオペラハウス..... 79, 81
- 社会進化論.....95
- ジャポニズム.....59
- 銃・病原菌・鉄.....68
- 自由学園.....93
- 自由学園明日館.....97
- 種の起源.....58
- シュロップシャー.....72
- ジョージ1世.....29
- ジョージアン・ハウス.....25
- ジョーンズ, イニゴ.....64
- 神学大全.....48
- 進化する都市..... 122
- シンケル, カール・フリードリッヒ
 7
- 人工知能.....7, 58
- 新古典主義建築..... 30, 50
- す**
- スイス学生会館.....88
- 垂直田園都市.....97
- 崇高(サブライム)..... 41, 42
- スカイハウス..... 125
- スキタイ.....69
- スケッチ.....48
- スコット・G. G.52
- スコットランド..... 31, 50
- スタウアヘッド庭園..... 30, 31
- スタンダダイゼーション(標準化)
70
- 捨子保育園..... 13, 16
- ストウ庭園.....31
- スピノザ, バールーフ・デ..... 58, 59
- スペイン.....29
- スミス, ロジャー..... 114
- スミッソン, アリソン・アンド・ピー
 ター..... 122, 123
- スライディング型枠方式.....87
- せ**
- 製紙技術.....15
- 聖書..... 14, 15
- 西方への旅..... 9
- せいめいのれきし..... 121
- 世界遺産..... 7
- 世界デザイン会議..... 122
- セゴビアの水道橋.....45
- セット..... 101
- 線遠近法..... 13, 22
- 漸進的保存..... 122
- セント・ヴェダスト.....63
- セント・ジェームズ.....63
- セント・ステファン.....63
- セントパンクラス駅.....52
- セント・ブリッジ.....62
- セント・ポール大聖堂..... 42, 62
- セント・メアリー・ル・ボー.....63
- セント・メアリー.....63
- そ**
- 装飾博覧会.....86
- 装飾様式演習 I 西洋古代..... 8
- ソーン公的・私的建築物の集合.....20
- ソーン, ジョン
20, 24, 31, 40, 43, 120, 123
- ソーン自邸(博物館).....24
- ソーン・メダル.....20
- ソチミルコのレストラン.....81
- ソビエト館.....86
- ソビエトパレスのコンペ.....86
- ゾロアスター教.....58
- ソロー.....94
- 存在論.....58
- た**
- ダーウィン, チャールズ.....58, 121
- ターナー, ジョセフ・ウィリアム
31
- ダービー, エイブラハム.....72
- ダーファムリン..... 122
- ダイヤモンド, シャレド.....68
- 対比.....50
- 太陽王ルイ14世.....28
- 台湾東海大学ルースチャペル..... 125
- タウト, ブルーノ..... 108
- タッセル邸.....61
- タトリン, ウラジミール.....86
- ダランベール, ジャン・ル・ロン
57
- タリアセン.....93
- 丹下建三..... 122
- ち**
- ちいさいおうち..... 120
- チーム10..... 122
- チェインバーズ, イーフレイム.....57
- 地下埋葬部屋.....21
- チジック・ガーデン.....23
- チジック・ハウス..... 23, 64

チャーチル, ウィストン……………31
 チャールズ皇太子……………31
 チャンディガール議事堂……………74, 89
 チューゲンハット邸……………128, 129
 中銀カプセルタワービル……………122, 124
 チュミ, ベルナール……………113

て

帝国ホテル……………94, 96
 デイドロ, ドウニ……………57
 ティファニー様式……………56
 ティムール……………69
 デカルト, ルネ……………14
 テクトン……………77, 112
 鉄筋コンクリート……………76
 デューラー, アルブレヒト……………13
 田園都市……………95, 104
 田園都市運動……………104

と

ドイツ工作連盟……………105
 東海大学湘南キャンパス1号館……………117
 東京国立博物館……………53
 東京女子大学講堂・チャペル……………117
 東京大学工学部1号館……………117
 東京タワー……………73
 同潤会青山アパートメントハウス
 ………………109
 同潤会清砂アパートメントハウス
 ………………109
 同潤会代官山アパートメントハウス
 ………………109
 ドウッチョ・デイ・ブオニンセー
 ニャ……………12, 14
 東方への旅……………7, 106
 ドオーモ……………13
 トータルデザイン……………71, 79
 突厥……………69
 ドナルドソン, T.L.……………114
 トポフィリア……………58
 ドメスティック・リバイバル……………105
 トラヤヌス帝マーケット……………36
 トルコ……………69

トロハ, エドワード……………79, 81

な

内藤多伸……………73
 長崎県……………45
 ナッシュ, ジョン……………33
 ナポレオン・ボナパルト……………49

に

二元論……………58
 日本民藝運動……………51
 日本民藝館……………51
 ニュータウン……………104
 ニュートン, アイザック……………15
 ニューラナーク……………102
 認識論……………58

ね

ネーションステイト (国民国家)
 ………………50
 ネルヴィ, ピエール・ルイジ……………79

の

ノートルダム・トラヴァイエユ教会
 ………………73
 野口孫市……………25
 ノルマン・コンクエスト……………49

は

バーク, エドモンド……………41
 バース……………26, 30, 31
 バートン, バーヂニア・リー……………120
 廃墟……………40, 42
 ハイゲート……………86, 87
 ハイドパーク……………68
 ハイポイント……………77
 ハイポイント1……………109
 バウハウス……………105
 バウハウス・デッサウ……………117
 バウハウス・ワイマール……………116
 バウムガルテン, アレクサンダー・
 ゴットリーブ……………41
 パエストウム……………44

パカッシー……………32
 パクストン・ガーダー……………71
 パクストン, ジョセフ……………70
 ハクスリー, トーマス・ヘンリー……………57
 博物学……………41
 バチカン広場……………29
 パックス・ブリタニカ……………49
 パッツィ礼拝堂……………17
 パッラーディアン・スタイル
 ………………23, 64
 パッラーディアン・ブリッジ……………31
 パッラーディオ・アンドレア
 ………………18, 23, 24, 30, 31
 ハディド, ザハ……………112
 バディントン駅……………72
 ハドリアヌスの別荘……………38, 45
 ハノーヴァー……………29
 パノフスキー, アーウィン……………14, 49
 ハミルトン, トーマス……………53
 ハムステッド・ガーデンサバーブ
 ………………105
 ハムステッドヒース……………87
 ハラリ, ユヴァル・ノア……………68
 パリ……………126
 バリー, チャールズ……………50, 52
 パリ北駅……………126
 パリ・メトロ……………61
 バルセロナ……………54, 60
 パルテノン神殿……………42, 44
 バロック……………23
 ハワード, エベネザー……………95
 バンケット・ハウス……………64
 汎神論……………58
 パンプローナ……………29

ひ

ピエール, ジャンスレ……………85
 ピクチャレスク……………30, 31, 41
 日土小学校……………124
 日高胖……………25
 ビッグヒストリー……………68
 ヒッタイト……………69, 70
 ビネ, ルネ……………59

- 百科全書派……………57
 ピュージン, A. W. N. ……52
 非ユダヤ的ユダヤ人……………86
 標準化と組立式工法…………… 70, 71
 ピラネージ, パッティスタ
 ……22, 31, 43
- ふ**
- フィレンツェ……………13, 16, 17
 フィレンツェ・ドォーモ……………16
 フィンスベリー・ヘルスセンター89
 フーケ, ニコラ……………29
 フーベール, ヤン・ヘンケット 121
 フェイディアス……………44
 フェルディナン・ド・ソシュール
 ……56
 フォースブリッジ……………66
 フォロ・ロマーノ…………… 36, 38
 ブザンソン劇場の内側映す眼…………41
 婦人の友……………93
 プチ・トリアノン……………29, 30, 32
 プライス, ウヴェデーラ……………41
 ブラウン, ケイパビリティ……………30
 ブラウン, ランスロット……………30
 フラシネ, ウジェーヌ……………79
 フランクフルト……………80, 106
 フランクフルト・キッチン………… 106
 フランス幾何学式庭園…………… 30, 31
 プリツカー賞……………84
 プリミティブ・ハット……………92
 ブルネル, イザムバード・キングダ
 ム…………… 70, 72
 ブルネレスキ… 13, 14, 15, 16, 17, 22
 ブルボン家……………29
 ブレスラウ 100 記念ホール……………78
 プレファブリケーション (組立式工
 法) ……70
 プレーリーハウス……………93
 ブロイヤール, マルセル……………86
 ブロードエイカー・シティ……………95
 プロテスタンティズム……………15
 プロテスタント…………… 28, 29
- ブロンデル, ジャック・フランソワ
 ……92
- へ**
- ヘヴスナー, ニコラウス……………51
 ペスト (黒死病) ……13
 ヘッケル, エルンスト……………56, 58, 94
 ヘブライズムの文化……………14
 ベラスケス, ディエゴ・ロドリゴス・
 デ・シルバ・イ…………… 22, 23
 ペルージャ……………35
 ベルクソン, アンリ…………… 122, 123
 ベルリン……………85
 ペレ, オーギュスト……………78
 ヘレニズムの文化……………14
 ペロー, クロード……………92
 ペンギンプール…………… 76, 79
 ペンダンティブ・ドーム……………21
- ほ**
- ホイットマン……………94
 ボイル, 第3代バーリントン伯爵リ
 チャード……………25
 放散虫……………57, 58, 94
 ポートサンライト…………… 108
 ボザール風…………… 114
 ポストモダニズム建築……………42
 ポセイドン神殿……………44
 ポゾラン……………77
 ポゾラン・コンクリート……………78
 保存的外科手術…………… 122
 ボッロミーニ, フランチェスコ
 …… 23, 24
 ポポロ広場…………… 29, 35
 ポルトランド・セメント……………78
 ポンデュガール……………80
- ま**
- マイ, エルンスト…………… 106
 前川國男……………86
 マグナ=カルタ……………50
 松村正恒…………… 124
 マテラ……………37
- マニエリスム……………23
- み**
- ミケランジェロ・ブオナローティ・
 シモーニ……………23
 都城市民会館…………… 122, 125
 ミラグローサ教会……………81
 ミラノ……………46
- む**
- ムテジウス, ヘルマン…………… 105
 無鄰菴庭園……………33
 ムンタネー, L. D. ……60
- め**
- メイエルホリド……………85
 女神像…………… 107
 メゾネット…………… 106
 メタボリズム運動…………… 122
 メンデルゾーン, エーリッヒ……………86
- も**
- モスクワ……………85
 モダニズム建築……………42
 モダンデザインの展開……………51
 モデュロール…………… 106
 モデルニスモ……………56
 モニエ, ジョセフ……………78
 モホリ=ナギ……………86
 モリス, ウイリアム……………51
 モリス商会……………51
 モルフォロジー……………58
 モンティチェロ…………… 23, 25
- や**
- 柳宗悦……………51
 山田守…………… 106
 山梨文化会館…………… 122
- ゆ**
- 有機体の一般形態学…………… 58, 94
 有機的建築……………94
 ユーゲントシュティール……………59

ユーゲント様式……………56
 優生学……………95
 ユダヤ教……………14
 ユニット・システム……………115
 ユニテ・ダビタシオン……………89, 106
 ユニティ・テンブル……………96
 ユルパニスム……………7

よ

吉阪隆正……………86

ら

ラ・ヴィレット……………113
 ラ・ヴィレット公園コンペ……………113
 ラ・ショー＝ド＝フォン……………7, 98, 106
 ラ・トゥーレット修道院……………99, 106
 ライト, オルギヴァンナ・L……………93
 ライトの生涯……………93
 ライト, フランク・ロイド……………121
 ライプニッツ, ゴットフリート・ヴィ
 ルヘルム……………58, 59
 ラウレンティーナ図書館……………23
 落水荘……………97
 ラスキン, ジョン
 ………………8, 31, 50, 51, 115, 123
 ラス・メニーナス……………22, 23
 ランドスケープ・アーキテクト……………29

り

リージェンツパーク……………76
 リシツキー, エル……………85
 リスボン大地震……………42, 43
 リバティ様式……………56
 リホツキー, マルガレーテ・シュッ
 テ……………106
 リュベトキン, バーソルド
 ………………77, 79, 85, 106, 109, 112
 リンカーズ・イン・フィールズ
 ………………21

る

ル・コルビュジェ
 ………………7, 9, 71, 74, 79, 84, 88, 93

ル・トロネ修道院……………89
 ル・ノートル・アンドレ……………29, 30, 32
 ル・ランシー ノートルダム教会
 ………………127
 ルイ 16 世……………29
 ルター, マルティン……………15
 ルドゥー, クロード・ニコラ
 ………………41, 92
 ルネサンス……………13

れ

レオナルド・ダ・ヴィンチ……………12
 レスプリ・ヌーヴォー……………85
 レスプリ・ヌーヴォー館……………86, 106
 レッチワース……………104
 レッドハウス……………53
 レン, クリストファー……………62
 レンツェル, ヤン……………45
 レンブラント, ファン・レイン
 ………………22, 23

ろ

ロイヤル・アカデミー……………21, 22
 ロイヤル・クレセント……………33
 ロイヤル・ホスピタル……………64
 労働者用住宅コンペ案……………106
 ロージェ, マルク・アントワヌ
 ………………92
 ローマ……………24
 ロシア構成主義……………85, 86
 ロトダン……………23
 ロビー邸……………96
 ロマンティシズム (ロマン主義) 42
 ロラン・クロード……………30, 31
 ロンシャン教会……………82, 98
 ロンドン……………31
 ロンドン大学……………114
 ロンドン動物園……………86
 ロンドン・リージェンツ・ストリー
 ト……………33

わ

渡辺仁……………53

経歴

渡邊 研司 東海大学教授 博士（工学）AA Graduate Diploma

1961年福岡市生まれ。1985年日本大学理工学部建築学科卒業。1987年同大学院理工学研究科修士課程修了後（優秀修士論文駿建賞）、芦原建築設計研究所勤務。1990年一級建築士資格取得。設計担当：千曲市更埴文化会館、住友不動産猿楽町ビル、岩波書店一ツ橋ビル他。

1993年から98年までロンドンにあるAAスクール大学院建築歴史・理論研究コースに留学。1996年から98年まで文化庁在外派遣研修奨学生としてイギリス、ヨーロッパの近代建築の保存と再生を研究し、DOCOMOMOの活動に参加。1998年帰国後、DOCOMOMO Japanの設立に関わる。2000年にイギリス近代建築運動におけるMARSグループの活動に関する史的研究で東京大学から博士（工学）授与。

1999年から2004年まで一級建築士事務所 連健夫建築研究室に勤務。設計担当：はくおう幼稚園、ルーテル学院大学トリニティホール他。2005年から東海大学工学部建築学科助教授、2011年から同教授。2019年から一般社団法人DOCOMOMO Japan代表理事。

著書：『論文はデザインだ！』（彰国社2008）同ハンダ版（2012）『ロンドン都市と建築の歴史』（河出書房新社2009）共著：『DOCOMOMO選 モダニズム建築100+α』（河出書房新社2006）『建築系のためのまちづくり入門』（学芸出版社2021）訳書：『20世紀のマスタービルダー オーヴ・アラップ』（東海大学出版部2017）『世界の廃墟・遺跡60』（東京書籍2017）。

スケッチで学ぶ建築文化史 透視図から近現代建築の保存再生まで

2022年2月23日 初版第1刷発行



編著者 渡邊 研司

発行者 柴山 斐呂子

発行所 理工図書株式会社

〒102-0082 東京都千代田区一番町27-2
電話 03 (3230) 0221 (代表)
FAX 03 (3262) 8247
振替口座 00180-3-36087 番
<http://www.rikohtosho.co.jp>

© 渡邊研司 2022 Printed in Japan ISBN978-4-8446-0911-7

印刷・製本 丸井工文社

（日本複製権センター委託出版物）

*本書を無断で複写複製（コピー）することは、著作権法上の例外を除き、禁じられています。本書をコピーされる場合は、事前に日本複製権センター（電話：03-3401-2382）の許諾を受けてください。

*本書のコピー、スキャン、デジタル化等の無断複製は著作権法上の例外を除き禁じられています。本書を代行業者等の第三者に依頼してスキャンやデジタル化することは、たとえ個人や家庭内の利用でも著作権法違反です。

★自然科学書協会会員★工学書協会会員★土木・建築書協会会員



ISBN978-4-8446-0911-7

C3052 ¥2700E

定価（本体 2700 円＋税）

建築

建築史 / 建築文化

